

議 事 録

会議の名称	令和５年度 第１回大竹市子ども・子育て会議
開催日時	令和５年１２月５日（火）１８：３０～１９：４０
開催場所	大竹市役所 １階休憩室
出席者氏名（敬称略）	別紙資料（１４名）
欠席者氏名（敬称略）	
事務局職員氏名	別紙資料
会議次第	１ 開会 ２ あいさつ（大竹市健康福祉部長） ３ 委員紹介 ４ 会長及び副会長の選出 ５ 議題 （１）第三期大竹市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について （２）統合後の大竹保育所の認可・利用定員について （３）その他 ６ 閉会
配付資料の名称	資料１ 大竹市子ども・子育て会議委員名簿／事務局名簿 資料２ 「大竹市子ども・子育て会議」について 資料３ 大竹市附属機関設置に関する条例 資料４－１ 子育て支援に関するニーズ調査 【就学前児童用】 資料４－２ 就学前児童調査票 資料４－３ 子育て支援に関するニーズ調査 【小学校児童用】 資料４－４ 就学前児童調査票 資料５－１ 本町保育所・大竹保育所の統合に伴う認可・利用定員の設定について 資料５－２ 未就学児の人口推移 資料５－３ 大竹市議会生活環境委員協議会説明資料（令和４年９月８日） 資料５－４ 大竹市議会生活環境委員協議会説明資料（令和５年９月８日） 第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画の冊子と概要版
その他	

討議内容	
事務局	【1 開会】 皆さんこんばんは。定刻より少し早いですが皆さんお揃いになっておられますので、ただいまから、令和5年度第1回大竹市子ども・子育て会議を開催いたします。本日の会議の開催にあたりまして、大竹市健康福祉部長、三原 尚美よりご挨拶を申し上げます。
健康福祉部長	【2 あいさつ】（大竹市健康福祉部長：三原） みなさんこんばんは。ご紹介いただきました、健康福祉部長の三原と申します。本日はお寒いなか、このような時間からお集まりいただきありがとうございます。ちょっと会場が肌寒いと思われる方がいらっしゃるんじゃないかと思います。今日5時から暖房を入れているんですが、ここまでしか暖まらないので、上着を着て来られた方は遠慮なく羽織ってもらったらと思いますので、そのあたりはご自分で調整をしてください。遠慮なく着ていただけたらと思います。 4年ぶりの会議の開催にあたり、改めまして関係団体に委員就任のお願いをしましたところ、皆さま方には快くお引き受けいただき、本当にありがとうございます。 大竹市子ども・子育て会議は市長の附属機関という位置づけになります。特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員に関すること、また、大竹市こども・子育て支援事業計画の策定などが議題になりますので、本市の子ども・子育て支援施策の推進という視点で、調査や審議をしていただけたらと思います。 今回、皆さんに審議をお願いする主要議題は、令和7年度からの5年間の次期計画、「第三期大竹市こども・子育て支援事業計画の策定」に関することになります。本日がキックオフになります。 また、本日はこれに加え、大竹保育所の利用定員の変更のお話もさせていただきます。 変わりゆく、子ども・子育てを取り巻く制度や、地域環境に合わせた子育て支援施策が展開できるよう、子育てをされている方や、子育て支援に関わっている方から、実態に即した多くの意見をいただきたいと思います。皆さんが集まるのを見させていただいてたんですが、すでに皆さんが顔なじみの方も多くいらっしゃるようでいろんなご意見が出るんじゃないかと思って楽しみにしております。 そして、本市が、より子育てしやすく、住みやすい、魅力的なまちになっていきますよう、お力添えをいただきますようお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	【3 委員・事務局紹介】 続きまして、次第3の委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。配布しております資料の中に委員の皆様の名簿がございますが、事前に皆様に配布させていただきました資料1の名簿の団体名等の一部訂正がございます。西村様の団体名等を「学校法人 常翔学園 広島国際大学（医療福祉部医療福祉学科）」と記

	載しておりましたが、正しくは、学部が異なっておりまして、「健康科学部医療福祉学科」でございます。訂正させていただきます。大変申し訳ございません。正しいものを本日配布しております。 それでは、各自、所属・お名前などの自己紹介をお願いいたします。西村様からよろしくお願いいたします。 《委員紹介》
事務局	続きまして、事務局職員が自己紹介をさせていただきます。 《事務局紹介》
事務局	本日は、第三期大竹市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査業務を委託しております、和可奈エンジニアリング株式会社の方にもご出席していただいておりますので、自己紹介をお願いいたします。
和可奈エンジニアリング（株）	《和可奈エンジニアリング（株）紹介》
事務局	ありがとうございました。ここで皆様へご案内ですが、この会議は、大竹市附属機関設置に関する条例で定める市長の附属機関になっておりまして、同条例第8条第2項により、会議は委員の半数以上の出席で成立することとなっております。 委員総数は、14名でございます。本日の出席者は14名全員出席ということで半数以上となっておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。 【4 会長及び副会長の選出】
事務局	続きまして、次第4の会長及び副会長の選出を行いたいと思います。大竹市附属機関設置に関する条例第7条第2項では、「会長及び副会長は委員の互選による。」と規定されております。会長・副会長について、自薦・他薦がございましたら、ご発言をよろしくお願いいたします。
委員	立候補いたします。 会長に日域委員が立候補されました。副会長はいかがでしょうか。 《西村委員が手を挙げる》
事務局	ありがとうございます。副会長に西村委員が立候補されました。他に立候補される方はいらっしゃいませんか。 では、いらっしゃらないようなので、会長を日域委員、副会長を西村委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

	<拍手>
事務局	拍手をいただきましたので、会長に日域委員、副会長に西村委員で決定いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。 ご承認いただきまして誠にありがとうございます。以後の進行につきましては、正面の会長席及び副会長席にお移りいただき、日域会長、西村副会長に一言ご挨拶をいただいた後、会議を進行していただきたいと思います。では、それぞれ移動をよろしくお願いいたします。 では、お二方ご挨拶をお願いいたします。
会長	<挨拶>
副会長	<挨拶>
会長	それでは、早速ですが、会議を進めてまいります。なお、議事の円滑な進行のため、事務局の説明、委員の発言等については、着席したままでお願いします。また、本日の会議は、おおよそ20時までには終了できるよう、円滑に進めてまいりたいと思います。 では、本日の配布資料について事務局から確認をお願いいたします。
事務局	本日机上に配布させていただいている資料につきましては、令和5年度第1回大竹市子ども・子育て会議次第 資料1といたしまして「大竹市子ども・子育て会議委員名簿・事務局名簿」 資料2といたしまして「大竹市子ども・子育て会議について」 資料3といたしまして「大竹市附属機関設置に関する条例」 これらの資料は、大竹市子ども・子育て会議の体制、会議の位置づけや役割などの基本的情報、設置根拠などに関する資料となっておりますのでご一読いただき、内容についての説明は、本日は時間の都合上、割愛させていただきます。 続きまして、本日の議題に関する資料といたしまして、 資料4－1 子育て支援に関するニーズ調査 【就学前児童用】 資料4－2 就学前児童調査票 資料4－3 子育て支援に関するニーズ調査 【小学生児童用】 資料4－4 小学生児童調査票 資料5－1 本町保育所・大竹保育所の統合に伴う認可・利用定員の設定について 資料5－2 未就学児の人口推移 資料5－3 大竹市議会生活環境委員協議会説明資料（令和4年9月8日開催） 資料5－4 大竹市議会生活環境委員協議会説明資料（令和5年9月8日開催）

	参考資料として、第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画の冊子と概要版を配布しております。 なお、ここで訂正と差し替えがございます。資料２の１の位置づけと２の役割に「子ども・子育て支援法第７７条」という条文が記載されておりましたが、条例改正がなされたため、「子ども・子育て支援法第７２条」と訂正させていただきます。また、資料４－１から４－４についても精査した結果、差し替えておりますのでよろしくお願いいたします。大変申し訳ございません。 配布資料は以上ですが、不足している方がいらっしゃいましたらよろしくお願いいたします。 《事務局より配布資料確認》 いらっしゃらないようですので、以上で配布資料の確認を終わります。 【議題】
会長	それでは、議事に入ります。最初に、議題（１）「第三期大竹市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について」です。 事務局は説明をお願いします。
事務局	令和２年３月に策定した「第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画」が令和６年度に計画期間満了を迎えることを受け、令和７年度から11年度までの５年間の計画期間とする「第三期大竹市子ども・子育て支援事業計画」の策定に令和５年度と６年度で取り組んで参ります。 そこで、市民の皆様の子育て支援事業に関するニーズ調査を行います。詳しい説明は、委託しております和可奈エンジニアリング株式会社をお願いいたします。 （説明員：和可奈エンジニアリング（株））
和可奈エンジニアリング（株）	ニーズ調査について、簡単にご説明させていただきます。第三期大竹市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたりまして、子育て支援に関する事業の利用状況や今後の利用希望を把握ため、就学前児童がいる800世帯及び小学生がいる800世帯の合計1,600世帯を対象といたしまして、ニーズ調査を実施いたします。これは、子ども子育て支援法及び国が定める基本指針によりまして、子ども子育て支援事業計画の策定に際しては、教育保育施設及び地域子ども子育て支援事業に関する今後の利用意向を把握するためのニーズ調査を行い、これを踏まえて今後の利用量の見込みを推計するとともに、提供体制の確保に関する具体的な目標設定を行うことが定められていることを踏まえたものとなっております。なお、本ニーズ調査の実施に際しましては、大竹市における子育て家庭の意向をより詳しく把握するため、国が示す必須調査項目に加えて、大竹市独自の調査項目を設

	定しております。また、回答者の利便性向上と回収率向上の観点から、W e bでの回答フォーマットを作成し、郵送での回収に加えて、インターネットを通じた回答も可能とするように、準備を進めているところです。ニーズ調査表としまして、簡単に内容について見ていければと思います。まず、資料4－1が就学前児童用の子育て支援に関するニーズ調査の協力依頼文になっております。1ページ目にご協力のお願いが載っております、ここにW e b回答用のQ Rコードを添付する予定としております。2ページ目がアンケート調査後の流れ。3ページ目が子ども子育て支援事業の各事業内容。そして、4ページ目が子育てに関する相談窓口について記載しております。続きまして、資料4－2に参りたいと思います。資料4－2は就学前児童調査票となっております、1番からお住まいの地域、2番がお子さんと家族状況、3番にお子さんの子育ての環境、今回の調査票はボリュームがありますので、イラストを使いながら少しでも見やすくするように努力いたしました。そして、3ページ目の4番が母親・父親の就労状況。5ページ目の5番がお子さんの平日の「定期的な教育・保育事業」の利用状況。6．7ページと飛びまして、6番がお子さんの地域子育て支援拠点事業の利用状況。7番がお子さんの土曜・日曜・休日や長期休暇中の「定期的な教育・保育事業」の利用希望。9ページ8番が病気の際の対応。9番が不定期の預かり事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用状況等について質問する内容となっております。9番までが国の必須調査項目になっておりまして、10番以降が大竹市独自に設定いたしました子育ての悩みや相談先に関する質問であったり、14ページ11番の子育て施策全般について、必要な情報の入手先ですとか、どのような子育て支援を充実させてほしいとか、さらに26番では各項目に関する印象を把握するための質問となっております。 続きまして資料4－3、こちらが小学生児童用の協力依頼となっております。内容に関しましては、就学前児童用就学前児童用の協力依頼文とほぼ同様の内容となっております。続きまして、資料4－4、こちらが小学生児童調査表になっておりまして、就学前児童調査票にない質問としまして、5ページ5番の放課後児童クラブなどの子育て支援サービスの利用状況の質問をその他の質問に変わります。その他は基本的に就学前児童用の調査票と同様の内容となっております。駆け足でしたが、調査票の内容について簡単に説明させていただきました。委員の皆様には、内容につきまして、ご協議いただくとともに、ご意見・アドバイスをいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございました。ただいま、説明のありました内容につきまして、ご質問やご意見がございましたら、ご発言をお願いします。
委員	資料の4番の母親・父親の就労状況調査のところで、問10父親の就労状況とあるんですけど、大竹は工場地帯で夜勤の男性も多いかと思ひまして、1日当たり何時間しかないんですけど、他市町の調査とか見ると、何時から何時が多いっていう就労状況の項目を設けているところもありまして、夜勤の方とか書く欄があったらそういうところからニーズが見えてこないかなと思ひました。

和可奈エンジニアリング（株）	わかりました。ありがとうございます。参考にさせていただきます。
委員	すごく項目がたくさんあって、私は見ただけで、これを配られたら困るって正直思っております。それで、これの回答率というか、返信されるのがその辺のどのくらいのパーセンテージでちゃんと返信されるのかということと、その回答がどういった形で見られるのか、ネットで何かで見られるとは思いますが。それと最終的にはこの名前がかえってわかりにくくなってしまいます。名前がないんですよ。記名なしで自由に回答するんだけど、自分が書いた言葉がどのように実現されたか確認するっていうのが、各自で確認するんでしょうか。3つぐらい質問させていただきましたが、よろしくお願いいたします。
和可奈エンジニアリング（株）	質問について確認させていただきたいんですが、回収率がどのくらいかということでしたが、こちらについては、昨年度の第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画の31ページを見ていただけますと、前回調査の回収率が載っております。前回では、就学前児童がいる世帯では800の配布に対しまして、有効回収数が431票、回収率が53.9%となっております。また、小学生児童がいる世帯に関しましても、配布数は同様の800に対して、有効回収数が402票。回収率が50.3%となっております。 2つ目の質問をもう一度よろしいですか。
委員	自分が思ったことを、調査の場合はそれで良いんですけど、こういうようなことをしてほしいという要望などを書いたときに、それが実現してるかどうかという確認については、確認のしようがないのかなとは思いますが、どんな風に考えたらいいのかなって思って。書きっぱなしでアンケート出しました、こんなふうにしてほしいですよ、よくあることなんですけど、それがどう実現したかっていうのが、それぞれが確認できることが一つでもあれば、また次の時に今度はこうしてほしいというきちんとした回答にもなると思います。返す方法は考えていらっしゃるのかなという質問です。最初とは違ったかもしれませんが、どう具体的に自分の意見がきちっと通っているかということがどう自分にわかるかということです。
和可奈エンジニアリング（株）	ありがとうございます。 会長 ちょっといいですか。今の質問は要するに、言ったことが、どこかに公表されたいわけですよ。ある意味、こういう意見がありましたって公表されたら自分が言った意見がちゃんと伝わっているとわかるわけです。実現するかどうかは次のステージですから。自分が言った意見を見捨てられたんじゃないかと思ったりするとアンケートは何だったんだと思うわけです。そういう意味だと思うのでよろしくお願いいたします。

事務局	ご意見ありがとうございます。個別の意見については、ホームページでは公表しようと考えております。その中で、達成できるできないはあると思いますが、それ以外の別の機会にそういったのを参考にして私たちは市政の運営であるとかに生かしていきたいと思っております。答えになっているかわかりませんが、よろしくお願いいたします。
和可奈エンジニアリング（株）	補足させてください。お手元の第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画の31ページに先ほど見ていただいたところにある調査概要がありまして、それ以降に調査結果に関しましては載っております。計画の中にアンケート調査の結果を載せることで、皆さんにご協力いただいたアンケートの結果がどういうものだったか示すとともに、この調査結果から抽出された課題と施策の内容を結びつけることによって、このアンケート結果から得られた課題がどのように今後の施策に生かされるのかできるだけわかりやすく整理したいと考えております。よろしくお願いいたします。
会長	他にございませんか。
委員	先ほどの回答数は、およそ半分。800の半分で400。この数字って、ニーズ調査をするうえで、十分な数、妥当という認識でいいのか。というのが一つと、内容的にこの質問内容として、これまでの第一期、第二期で行ったことが何で、その成果として出ているかどうかを測る要素が入っているのか、そもそもそういう趣旨じゃないのか、そういったところを知りたいです。よろしくお願いいたします。 とりあえず、数が妥当かどうかという話が一つ。あとはこのアンケートは趣旨としてこれまでやってきた評価はやるのかやらないのか。
事務局	1点目の数が十分なのかというご質問ですが、一般論でいうとだいたい3割とかそのぐらいという傾向が多いのではないのかという認識をしているのですが、今回の計画でいうとだいたい5割前後ぐらいの回収率があります。今回Webも導入したいと考えておりますので、そういったところでもう少し上がってほしいと思っております。十分かどうかと言われたらはっきりと十分とは言いきくところもありますが、一応目的としては達成すると考えております。
委員	率を上げたりとかではなく、ニーズ調査とか計画を立てるうえでの意見を集める意味で回答数がここまではないといけないという線があって、それに対して400が妥当なのか、全然それだと足りませんよっていう数なのか、そこを持たれているのか、絶対数がどれぐらいなのか。
事務局	すいません。回答になっているかあれなんです、5割程度は妥当だと考えております。
委員	割合ではなくて、絶対数として統計学上これだけあれば十分ですっていうのが知りたいです。

事務局	統計学上の数値を持っていないから申し訳ないんですが、割合は高ければ高いほど確からしいということは証明されています。数が同じ400であっても、1割の人しか返してこないものと、5割返してくるものであれば、5割返してもらうほうが確からしさは上です。5割の数字がどれだけ正しいかはわかりませんが、5割で400という数字があるということであれば、今後この数字を使ってサービス量に転換していくんですけど、これだけの需要があるという形でやっていくんですが、これまでの数値を見ましても、そこまでずれていないのでこれで問題ないと考えております。
委員	ありがとうございます。
和可奈エンジニアリング（株）	続きまして、内容のご質問に回答させていただきます。まず、先ほど申し上げましたとおり、就学前児童用調査票でいいますと、1番から9番までは国の必須項目になっております。なので、ここに関しては昨年度から一部見込み量として設定する項目が増えていたり、国のほうでこういう質問を追加してほしいと指示が明確にありまして、それを反映する形でアンケート調査票を設計しております。10番以降に関しましては、例えば一部SNSの利用状況等の質問項目を増やしたりはしているんですが、過年度との比較の観点からも現時点では前回の質問と同じ質問を調査票のほうに記載させていただいております。調査票の質問を増やすことによって、地区のより多くの意見を把握できるとともに、もうすでに十分なボリュームの調査票になっておりますので、回答者の負担が増えるというところとのトレードオフがどうしてもございますので、委員の皆さんにご協議いただきまして、ぜひこういう質問は追加してほしいというご意見をいただければ、その中からしっかりと内部で協議させていただいて追加したいと考えております。
委員	ということは、これまでのやってきたことに対する評価の要素はないということですか。
事務局	これまでの事業を行ってきたことについての評価につきましては、このアンケートとは別のところで、市役所内部で検証させていただいて、その結果を皆さんにご報告し、新しい計画にも反映していくことになります。以上です。
委員	ありがとうございます。
会長	他にございませんか。 では、意見は出尽くしたと思いますので次の議題にいきたいと思います。 議題2「統合後の大竹保育所の認可・利用定員について」でございます。事務局からの説明をお願いします。
事務局	資料5－1をご覧ください。 1 これまでの経緯といたしまして、平成30年12月に「大竹市公立保育所等再編

基本方針」を策定しました。再編の方向性として、①施設の効率化、②施設等の改善及び多機能化、③周辺環境への配慮を決定いたしました。

この方針を基に、令和2年8月に「大竹市公立保育所等の再編における大竹地区施設整備計画」を策定しました。この計画では、本町保育所を大竹保育所に統合すること、大竹保育所の収容可能人数及び民間保育施設の状況を勘案し、統合後の定員を120名以内とすることの2点を決定いたしました。

2番の今後の予定としまして、令和6年4月に本町保育所を大竹保育所に統合し大竹保育所で保育を開始する予定です。令和6年10月頃から改修工事を行うにあたり、一時的に本町保育所で保育を行います。そして、約1年かけて工事を完了し、令和8年2月頃から改修後の大竹保育所で保育を開始する予定です。

3番の認可・利用定員についてですが、令和5年11月1日時点の在籍児童数の表をご覧ください。4月1日時点の年齢で大竹保育所が0歳児6人、1歳児8人、2歳児14人、3歳児17人、4歳児13人、5歳児21人…計79人。本町保育所が0歳児1人、1歳児3人、2歳児5人、3歳児8人、4歳児8人、5歳児16人…計41人。大竹保育所と本町保育所の合計が120人になります。この人数の中には他市から通っている児童も含まれます。なお、注意書きに記載しておりますとおり、本町保育所は0歳児保育を実施しておりませんが、入所時点で満1歳の誕生日を迎えた児童については受け入れを行っているため、0歳児に人数が挙がっております。

次に下の統合後の認可・利用定員数（予定）の表をご覧ください。各年齢の予定人数ですが、0歳児から2歳児については11月1日時点の児童数と同じぐらいの人数になると想定しており、3歳児から5歳児については、11月1日時点の2歳児から4歳児の児童がそのまま進級することを想定し、110人とししました。

保育室の必要面積についても、裏面に記載の児童福祉施設の整備及び運営に関する基準第32条の一部にあるように、0歳児と1歳児の児童1人につき3.3㎡、2歳児以上の児童1人につき1.98㎡を確保しております。改修工事期間中に保育を行う本町保育所についても同様に必要面積を確保しております。園庭（屋外遊技場）についても改修後の面積が約500㎡になる予定ですので、2歳児以上の定員86人に3.3㎡を乗じると283.8㎡となり、必要面積を確保しております。

なお、参考資料として、資料5-2に未就学児の人口推移を、資料5-3に令和4年9月8日開催の大竹市議会生活環境委員協議会の資料を、資料5-4に令和5年9月8日開催の大竹市議会生活環境委員協議会の資料を添付しております。資料の説明については、時間の都合上割愛させていただきます。以上で議題2の統合後の大竹保育所の認可・利用定員についての説明を終わります。ご審議を承りますよう、よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問等ございましたら発言をお願いいたします。

委員	令和2年の8月の説明会に参加したんですが、人数がすごく少なくて、20名いたかないかぐらいで、大竹会館であったと思うんですけど、すごい少なかったこともびっくりして、夕方だったと思うんですけど、すごい人数少ない中で説明が行われて、みんな大丈夫なのかなって正直思いました。私は建物に対して素人なので、大竹地区にある2つの公立の保育所が1つになるということで、ひまわりさかえこども園も以前は公立だったけど、今は民間でやってらっしゃる。唯一の保育所となるであろう大竹保育所が改修という形で、新築にはならないんですかと素人ながらも質問しましたが、結局本町保育所の耐震性が無いということで、壊さなきゃいけないという説明があったと思うんですけど、そんなに築年数が変わらないんじゃないかと、10年も変わらなかったんじゃないかってちょっと思ったりするんですよ。そうして、建て替えをしてどの程度の補強になるかわからないんですけど、耐震性のこともを考えて建て替えると思うんですが、新築にかかるものとのすごく違うのか、素人なのでわからないんですが、たまたま隣の家が改修して建てるとずっと言われていたが、いろいろ計算してもらったら、やっぱり新築にするしかないってなって、ものすごくお金がかかるんだよってたまたま聞いたんです。もちろん規模も違うし、全く違うんだろうと素人なので、改修するほうが高いというのはよく聞く話なので、そのへんは唯一の公立として残すというようなこと、大竹の子どもたちを私立と公立とでともに切磋琢磨しながら育てるのが良いと思っている中で、もしかしたらいずれはまた私立でお願いするようになるのでは。私立が悪いとは思ってません。子どももみんな私立のほうに行かせてもらいましたので、公立がすべてとは思ってないんですが、切磋琢磨するという意味で公立も残してほしいなって頭にあって、すごい建築費ってそんなに違うのかってかねがね思っておりました。
会長	お願いします。
事務局	ありがとうございます。耐震性の話があったんですが、大竹保育所、これは建築基準法上という新耐震、昭和56年以降に建てられた建物なので、耐震性がある建物です。本町保育所については、大竹保育所の11年前に建設されたんですが、こちらについても耐震診断の結果、耐震性はある、問題ないという判断をいただいております。しかしながら、耐震性があるということに加えまして、大竹地区の民間保育サービスの供給量や今後の児童数の減少、そういったことを考えたときに、新築というのが妥当なのかどうなのか、そういった議論になりまして、金額の面の話もあったんですが、金額も新築と比較検討もしました。結果的に解体をして新たに建てるということに比べると、改修のほうが安価であるということがあります。結果として、新築で建ててしまうと、将来的に過剰な投資になってしまうのではないかと考えました。したがって、工事費が新築よりも安価であると思込まれる大規模改修のほうを選択したという経緯がございます。この大竹保育所ですが、完成が昭和60年の3月、建築後約37年ぐらい経過しているんですが、実対応年数60年とすると、建物の残年数が約20年。建て替えると60年間建物を存続することになりますが、今後の児童数の見込みから、60年間公立を2施設存続させるというのは極めて厳しい。そういったところから、1つは残したい、という中でこちらは改修が妥当ではないかと総合的に判断しまして、決定させていた

	できました。よろしくお願いいたします。
委員	他の方はどう思われますか。金額とかも出てないのでね、そのどの程度金額が違ってくるのかによって、私としては、以前さかえ保育所を改修して、最終的に民間に委託したこともあって、民間はすごくいいんですけど、もちろんいいことも園ができて、素晴らしいと思っているんですけど、きちっとした額があって、ほんとに3倍かかりますよっていうんだったらそうかなって思うんですが、1.5倍とか1.2倍とかなら新しいのにしてよって、他のお母さん方となんで建ててくれんのってわずかな人数でしたが、ありました。額的なことで申し訳ないんですが、わかる範囲で言っていただければありがたいです。
事務局	ありがとうございます。額についての細かい資料がないのでじっくりとでお話ししますが、当初の大規模改修の考え方として、耐震性があるので、最低限の機能を付加する、耐用年数的に限界がきている機器類等の最小限の改修という方針が令和3年度にはありました。その後、小方認定こども園ができて、基本的に改修の方針ではあるんですが、内装・外装、設備的な面も含めて、基本的には新築と変わらない形で整備したいと考えております。たしかにお金的に言うと2倍3倍違うって程の差は出てなかったように思われるんですが、そういった中で総合的に考えて改修という結論になったということでご理解いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。
委員	総合的にと言われてもわからないんですが、改修で良いつてあるんですかね。改修して古いものを残す、外国では古いものが良いつてあるんですが、建物も古いもの、ほんとに古いものを残して価値が上がるってフランスでは聞きますが日本ではあまり聞かないです。ちょっとよくわからないんですが、皆さんが納得されているなら大丈夫です。聞きたかっただけです。
委員	仕事柄、建設系の仕事をしているんですが、先ほどおっしゃられた通り、耐震性が問題なくて、要は箱とか骨組み自体が問題ないということならそこは問題ないと思います。実際に目に見える内装とか外壁とか、什器とか設備系のものですよ。その辺は綺麗にされるということなので、骨組みは古いまま、ただ強度は十分有しているということであれば、有効な手だと私は思います。使えるものを壊して新しくまた作り変えるというのは逆にどうかなって私は思います。
委員	ありがとうございます。
会長	他にございませんか。
委員	改修するという市の判断であれば、それは仕方ないと思うんですが、改修が令和8年の2月までかかるということで、それまでに今日5時から暖房をつけているのに全然暖まってないということで、そのようなことが本町保育所でもあったら困るなとは思いますが。あと2年3年ありますので、それまでの空調とかちょっと我慢して新しいのができるまでではなく、今寒いのであればその辺の改修と

	か、エアコン等の空調の完備も考えてほしいと思います。
会長	誤解があったらいけないので、ちょっと会長の立場を超えてるかもしれませんが、市役所は空調を替えましたよね。だから、今日暖房が効かないのは、エアコンが悪いのではなくて、設定が悪いんですよ。要するに省エネの関係で上がらないんですよ。なので、5時からやっても3時からやっても、多分上がらないんですよ。ご理解お願いします。
委員	私の職場も28度にしても上がらないんで、同じようなことなのかと思ひまして。
事務局	貴重なご意見ありがとうございます。本町保育所も数年前から年数が経っているのでだいぶ更新をして、更新後10年以内のエアコンがほとんどなので、効かないということは現場から聞いてはないので大丈夫だと認識しております。よろしく願いいたします。
会長	他にございませんか
委員	設備基準はさっき説明があったんですが、保育士が大竹保育所に何名いて、本町保育所に何名いらっしゃって、令和6年から大竹保育所で何名ご活躍いただけるのか。すごい単純に考えたら、加配気味にしていいただけるんだろうなという風に思います。国の基準より。保育士が慢性的に不足しているというのは全国的なので大竹でも一緒みたいで、保育士の仕事ってすごく大変じゃないですか。まあ、人数を増やすことで仕事量を減らすっていうやり方にもつながるんじゃないかと思ひまして、給料を上げるわけにもいかないので、それぐらいしてあげてもいいんじゃないでしょうか。保育士について教えてください。
事務局	はい。ありがとうございます。統合の1つの理由として、近年の保育士不足が挙げられております。望ましい保育を行うためには、言われた通り、ある程度余裕を持った保育士の配置、これが必要不可欠でございますが、この保育士不足により、余裕のない保育を行わざるを得ないというのが現状続いておりました。保育士不足を少しでも解消するためには、この統合が1つの手段であると考えました。基本的には、保育士については、具体的な今の人数のデータを手元には持っていないので申し訳ないんですが、基本的には新たに統合した保育所において、ほぼ引き続き勤務をしていただきたいたいと考えておりますので、今よりは若干手厚く保育ができるのかなと考えております。よろしく願いいたします。
委員	ありがとうございます。そういうふうに前向きに考えていただいているのは安心しました。ただそれが一過性にならないようにですね、とにかく今いるメンバーの保証はしていただいて。例えば、定年を迎えられた方で、1人減り、2人減り、国の最低基準に合致しました、このままいきましょうではなく、1人2人多い、余裕があるままの状態、大竹市公立の保育所の保育士定員として考えてもらえたら、保護者の皆さんも安心すると思います。給料を少し上げてあげたら良いん

	じゃないですか。
事務局	ありがとうございます。給料面に関しては市役所全体の話になってくるので、ちょっとできない部分ではあるんですが。近年、会計年度任用職員の手当などはかなり充実してきておりますので、年収ベースでいうと、数年前に比べると相当上がっているのかなという認識です。それが一般的に高いかといわれると、まだということはあるんですが、着実に上がっていると認識しております。よろしく願いいたします。
会長	他にございませんか。
委員	大竹保育所と本町保育所が統合されるということですが、利用時間に差が出てくるのでしょうか。
事務局	利用時間ですが、基本的には2つの保育所の1番長い時間を最低とろうと考えております。現在大竹保育所が午前7時半から午後6時半まで、土曜日は午後3時で終わりなんですが、本町保育所が午前7時半から午後6時までとなっておりますので、統合後は基本的に午前7時半から大竹保育所の一番遅い午後6時半なので、まずはこの時間を下回らない方向で考えております。土曜日については逆に大竹が午後3時まで、本町保育所が午後6時まで開いてますので、午後6時までを最低限とる。改修後はそこからさらに延長するかどうかはこれから考えていこうと思っております。よろしく願いいたします。
委員	ありがとうございます。今お聞きしたのは、総合して場所が1つになる。場所が本町保育所に通われてた方は、遠くなるとか発生してくると思うんですね。なので、そのあたりを考慮して、皆さん働いてるから保育所に預けられているので、場所が変わることに対する何か配慮があると非常にありがたいので、そのあたりもご検討していただければと思います。以上です。
事務局	ありがとうございます。参考にさせていただければと思います。
会長	他にございませんか。 なければそろそろ終わりにしたいと思いますが、時間がまだ少しあります。
委員	現在、小方認定こども園を利用している保護者のものですがけれども、認定こども園の位置づけは、今話されてる大竹保育所と本町保育所の統合の参考になりにくいですか。今利用している保護者からの意見として、モデル保育園となりうるのか、なり得ないのか。私は、立戸保育所となかはま保育所を経験し、新設認定こども園ができるまで待つて、入園した立場のものだから、今後統合した後、どのようなイメージ像になるのかを体験しているので、参考にお話ができるのであればしたいと思いますが、参考にならないなら控えたいと思います。
委員	ぜひ聞きたいです。

委員	先ほど話であった保育士の配置であったりとか、2つの保育所が1か所になることで遠方になってしまう家庭が出てくるんじゃないかというイメージ、あとは建設面についてのお話だとか、いろいろ見てるからこそ不安なお声を聞きました。私の子どもも、古い建物の立戸保育所で9年間ぐらい過ごして、末っ子が昨年度から小方認定こども園を利用することができましたが、令和8年を迎えるまでの空調のことなど委員から意見が出ましたし、そういった環境整備に関しては、古いなら古いなりに、子どもや指導者で元気にやるので、トイレの設備が外にあるので暑い寒いがありました、なんとかありました。新設して、立戸保育所だったから近かったのに、今度は2号線を越えて来なくちゃいけない。とかできて通うまでは、いろんな不安とか不便を想像するんですが、できたらできたで皆さんなじみますし、そこが仕事上の動線だから利用する方もいれば、動線自体は違えど、そこを利用したい環境となったからってという保護者それぞれ考え方や選び方はあると思うので、できる前からあーじゃないかこうじゃないかって言うよりも、できてからのほうがメリットがたくさんあったから、きっと有識者の方やたくさんの方のいろんな意見で、まとまった事業計画を数年かけてされているので、新設のほうが良かったんじゃないかってよりは、安心して十分子どもは育つかなって思っています。あとは支援の質かなと思っているので、今すごく良い保育を受けていると認識していますので、保育士の人数も1人欠員されれば、またすぐ代替の先生も現れましたとアナウンスもありましたし、私個人の意見ですが、何不自由なく統合後も安心して利用できています。以上です。
会長	ありがとうございました。
事務局	ありがとうございます。今回改修するにあたって、現場の保育士の意見をかなり取り入れようと思っています。取り入れられるように頑張っています。なかなかこちらでは見えない部分もありますし、どうしても改修の弱点として今あるものの条件からなかなか逸脱できない部分が建築条件的にあって、どうしようもない部分はあるんですが、それ以外のカバーできるところは積極的にやりたいなと思っています、実施設計を進めております。改修することによって建物が綺麗になって、そこで良い保育ができたという思いは持っておりますので、そういったところで取り組みをさせていただきます。ありがとうございました。
委員	委員のお話を聞かせていただいて、率直に思ったんですが、今我々含め、該当されてる保護者の方が感じられてる不安が出てくるっていうのは、情報量のなさ大きな原因だと思います。改修より建て替えのほうが良いんじゃないかっていうのも、仕上がりがこんなふうになるよっていうイメージ図が出るだけで、不安感っていうのはすごく消えると思うので、こういう限られた場だけでの情報提供ではなくて、広く市民の皆さんに知ってもらう方法を、ホームページに載せてるからみんな見てくれるでしょだけではなく、もっと積極的に見てくださって姿勢を持つことによって、すごく大竹市に対する印象が変わってくる気がしたので発言させていただきました。以上です。
事務局	ありがとうございます。この統合一時移転計画についてですけど、保護者説明

	会を9月に開催して、説明周知を行うとともに、両保育所の入所児童の保護者全員に文書を配布しております。また保育所内でも疑問があれば、保育所長をはじめ、そういった周知に努めております。また、大竹保育所と本町保育所において、保護者向けになかよし通信というものを発行しております。これは大竹保育所と本町保育所が仲良くこれからやっていこうねという現場の所長や先生の思いを含めて、定期的に交流というのを月1回ぐらいやってるんですが、こういった交流の中身、こういった交流しましたよ、こういったことがあります、その中でこういった改修します、統合はこの時にします、こういったニーズはこういったふうになります、そういった情報も積極的に出しております。ホームページや市広報についても当然周知を図っておりますし、これで完璧かと言われたらちょっとあれなんですけど、できる限りできることをやっている現状です。よろしくご協力お願いいたします。
事務局	今、まさに建物の改修の設計業務を今年度末を目途に進めております。ある程度のものがお示しできる段階になりましたら、保護者の方ももちろんなんですけど、市民の方に対してもその形を積極的に情報発信して参りたいと思っております。ご意見ありがとうございました。
会長	他にございませんか。 出尽くしたようなので、ありがとうございました。 では、以上をもちまして、本日の大竹市子ども・子育て会議を終了いたします。皆様、ご協力ありがとうございました。